

～今月の読み物～

「バレーボールと私」

高広木材(株)

渡辺 昭

およそ、私の体型や運動神経から、これほど相応しくない組み合わせはないと思われる方が多いと思います。たしかに私は幼少の頃から運動が苦手で、小学生の頃は体育の成績はいつも2で、足も遅く、跳箱も鉄棒も出来ない全くの運動音痴でした。小学6年生の頃、盲腸の手術をしてから、急に体力がついてきたのか、体も大きくなり中学1年生の時は、整列の時後ろから3番目でしたが、身長はその時のまま160cmで伸びが止まってしまいました。そんな私がバレーボールをするようになったきっかけは、中学3年生の時、幼馴染で1級上のA君が高校でバレー部に入り、パスの練習に付き合わされたのが始まりです。高校に入ったら何か運動をと思っていた私は、迷わずにバレー部に入部しました。昭和32年の当時は、今と違って9人制、室内競技ではなく、グラウンドの片隅にある土のコートでの練習でした。受験校であったため、練習は週に2日、水曜と土曜でした。当時の我が高校のバレー部は中学生の頃からの経験者も多く、そこそこのレベルでした。始めの頃はパスの練習の後は球ひろいばかりでしたが、6月の大会が終わると受験勉強に専念するため3年生は引退、少しはレシーブ練習もさせてもらえるようになりました。同級生は私を含めて5人で私以外は皆、中学時代からのバレーボール経験者、運動神経も鈍く経験もない私でしたが、まじめに練習には参加しておりました。10月の秋季大会には、私を含めて9人しか揃わなかったため、試合にも出してもらうことが出来ました。2年生になった4月には、近隣有力中学のバレー部でキャプテンをしていた経験を持ち、身長も180cm級の後輩が5人ほど入部してきました。当然のことながら、又、球拾いに逆戻りでしたが、6月に1年上の先輩が引退すると、バックレフトで試合に出られるようになりました。10月の新人戦では、全員で9人だったのでレギュラーで出場し、優秀な後輩たちのお蔭で東京都ベスト8に入ることができました。私の役目は声出し係、邪魔にならないよう、チャンスボールは他のレギュラーに任せていました。現在でも声が大きくよく通るのは、その頃鍛えた成果です。3年生の最後の関東大会予選では、残念ながらあと一歩届かず敗退、受験勉強に専念する為引退です。その後も続々と優秀な後輩が入部してきたため、我が校のバレー部は黄金期を迎え、関東大会は常連、東京都でもベスト4に入ることも多々ありました。何とか大学に入学できた私は、やっと9人メンバーが揃った女子部の練習を見てほしいと顧問の先生に頼まれ、同期のS君と共に女子部のコーチをすることとなりました。何とか強いチームにしてあげたいという熱意だけで頑張った結果、近隣の高校と試合をしても負けなくなりましたが、3年目の私が指導した最後の試合、関東大会予選であと1勝すれば関東大会へ行ける試合で関東大会の優勝校と当たってしまい、完敗して、残念ながら出場することは出来ませんでした。当時は東京オリンピックの直前で、当時の大松監督率いる日紡貝塚チームの全盛時代、「根性」がもてはやされた時代で、何の技術も無い私の指導に良くついてくれたと今でも感謝しています。

大学を卒業してすぐ、家業の高広木材に入社してからも、試合の応援や合宿での手伝い、そしてそれまであまり活発でなかったOB会活動をする事となりました。ちょうど、9人制から6人制への転換期で、強豪校が6人制へ移行した年に、男子が都大会9人制の部で優勝しました。それがきっかけで、私より8年先輩のT先輩がOB会長を引き受けてくださり、様々なイベントを行うようになりました。その1年後、大変お世話になっていた顧問のH先生が同じ学区のH高校に転勤なされ、わが校と対抗戦をすることとなり、その後やはり同じ学区のK高校が加入して三校対抗バレーボールリーグ戦を、三校のOB会が中心になり、毎年9月と4月に現役男女とOB・OGの1日12試合の大会を開催することとなりました。今から45年前、昭和47年、私が31歳の時です。大会の会長は、我が校のOB会長T先輩でしたが、準備の会合は面倒を見てくれるのですが、大会当日には姿を見せず、仕方なく私が取り仕切る事になってしまいました。10回大会位から、仕方なく私が会長になって40年、今も会長のまま昨年秋には91回になりました。まったくの非公式の大会でこのように長く続くのは珍しいと言われますが、この大会が秋の大会は新チームとしての初めての試合で、秋の新人戦にとって良い練習の機会となり、春の大会が、その後に続く公式戦の試金石になる意義ある大会であることが大きな要因です。春の大会には、現役男女のベスト6を選出しメダルを授与しておりますが、あまり強くない底辺のチームの選手にとっては、大きなモチベーションになっています。又、OB・OGにとっては、卒業後もバレーボールを楽しむ機会であり、OB会活動を充実させるという点に於いても、重要な大会です。区切りの10回ごとに、記念大会を行っており、シニア戦やOB・OGの懇親会を開いており、50歳以上の方の参加もあって、楽しい一日を過ごしております。然しながら、私が現役の頃からすると生徒数も減少し、チームを維持するのが難しくなっており、大会の継続が困難になりつつありますが、何とか100回大会まで続けたいと考えております。

我が校のバレー部史上、最もヘタクソだった私が、卒業して58年もの長い間OB会活動に携わってきたお蔭で、大変貴重な宝物を与えてもらいました。その一つが、仕事とは関係のない友人の多さです。毎年1月の新年会では、60歳以上のOB・OGが20人ほど集まって楽しい一時を過ごしております。三校リーグの準備会・反省会では、卒業したばかりの後輩たちと大会の準備と次回大会に向けた話し合いを行っており、全く世代の違う若者たちとの交流の場もあります。20年ほど前のOB会の二次会の席では、ちょうど私の前に座っていたOGをスカウトしてわが社に入社してもらい、現在も大変大きな戦力として貢献してもらっておりますが、同時にOB会の幹事として、会報の発行や連絡係としても活躍してもらっております。

月報の伊藤編集長から、バレーボールについて原稿をと依頼され、文章を書くのが苦手な為、4か月ほど掛けて、やっとここまで書いてまいりました。ご迷惑をおかけし申し訳なく、お詫び申し上げ、稿を閉じます。

平成30年1月8日 記



第90回大会 バレーボールの仲間達と記念撮影 センターに筆者

